

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「漢詩」、「和歌」、「俳諧」以外にも、日本詩歌史において、もう一つのきわめて重要な分野を形づくる詩歌ジャンルがありました。「歌謡」がそれであり、その最大の特徴は、言うまでもなく、一定のリズムとメロディーを有し、時には簡単な楽器を伴って詠われた詩歌作品である、というところにありました。

必ず声に出してうたわれ、多くの場合身振りや踊りを伴うものが歌謡でしたから、それを表記にするのにも、日本語の話し言葉に適した文字を用いねばならず、当然、漢詩のスタイルとは全く異なる、仮名文字の多いスタイルが、歌謡作品の普通の形式となりました。そして、「うたう」という行為には、一方では規則をきわめて重んじる側面があると同時に、他方では絶えず規則を逸脱し、自由奔放に新しい詩を、形式、内容いずれの面においても追求するという側面が伴いますから、日本の歌謡が、その長い歴史を通じて、豊かな変化を遂げてきたのは当然のことでした。

(A) 漢詩は、その歴史のホツタンの時期に、菅原道真のような大詩人を持ち、その後約一千年の歴史の中でも、多くの僧侶や儒者や文人、画家その他の芸術家たち、武士や政治家や革命家たち、さらには少数の女性たちまで含め、各時代に傑出した個性を排しました。

(B) 歌謡は、ほとんどの場合、作者が誰であるのかさえわからない作品ばかりであります。これが漢詩、和歌、俳諧にくらべて、歌謡の一大特徴であると言えます。

実際、この「無名性」こそ、「文学史」というきわめて「近代的」な制作物において歌謡が受けてきた、不当に低い評価、理不尽な扱いの理由を説明するものでもあろうと私は思います。なぜなら、近代は、特に日本における近代文学は、作品の中に、何よりもまず「個性」や「独創性」の輝きを要求したからです。完成した作品よりも断片の方に、セイジユクよりもホウガの可能性の方に、結果よりも意図の中に、天才と独創性のしるしを見ようとすると近代日本のロマン主義は、歌謡の無名性の中に、いわば摩滅した個性、遊戯的な恣意性、陳腐な前近代性を見出し、自我意識確立への欲求とは縁遠いがゆえに、真面目な学問的考察の対象とはしにくいと見なしたのです。

そのこと自体の中に、近代日本の限界がありました。「a」や「b」を追求する一方で、「c」の中に含まれる多様な豊饒さを十分に汲み取ることができなかったからです。それは日本の近代化が、きわめて短時間に西洋の達成したものに追いつくことを目指したところから来る、やむを得ない歪みだったと言えますが、少なくとも芸術や文学においては、近代化以前の文化的伝統と近代化以後のそれとの間に、多くの不毛な断絶が生じたことは否定できませんでした。

近代日本の文学研究や文学史において、歌謡の地位が不当に低く見られてきたという事実は、そういう意味では、近代日本文学全体の達成したものを検討する上でも、カッコウの材料を提供しているといえるでしょう。少なくとも私は、その点にこそ、『梁塵秘抄』や『閑吟集』を初めとする歌謡を、現在再評価する意味があると考えています。

歌謡が近代においてあまり重視されなかったことには、もう一つの理由もあつたと考えられます。歌謡の作者たちのうち、質においても量においても特にすぐれていた人々の多くが、階級的に言えば社会の最下層に属する人々だったという事実です。彼らのうち特に重要な構成員は、不特定多数の男性を相手にする遊女であり、また、傀儡師と呼ばれるあやつり人形を扱う芸人をはじめとする、住所不定の多種多様な芸人たちでした。いずれも、階級的には最下層に属していました。しかしまた、彼らの中には驚くべき歌い手や演奏家がたくさんいて、時には社会の最上層の人々、すなわち天皇さえも含む高位の貴族階級や武士階級の人々が、彼らの芸に最大限の敬意と憧れを抱き、師として手厚く遇することさえあつたのでした。

(C) 歌謡は、そのような側面において、近代市民社会の価値観では律することのできない要素をたっぷりと持っていたのでした。「個性」や「自我」の主張を最重要のものとする近代主義は、ここではあまり有効な判断基準となり得ません。歌謡はいわば「超個人的」であり、「階級縦断的」な性質をふんだんにもっていたからです。

(D) 作品のテキストについても、歌われる時や場所のいかんによつては、臨機応変に詩句の一部を変更したり、原作をもじって別の詩にしてしまうようなことも可能であり、場合によつてはその作り変えによつて、かえって賞賛されるようなことさえありました。テキストの厳密な自己同一性を要求し、作者の著作権を優先的に保護することをもって当然とする近代の考え方を、いわば嘲笑するような自由奔放さ、それが歌謡の本質的属性であり、その輝かしい特徴でさえありました。

(大岡信『日本の歌謡』より)

※ ジャンル：種類・種別。主に文芸作品などの分類に用いられる語。

※ 逸脱：本筋から外れること。

※ 菅原道真：(八四五〜九〇三)平安時代の学者・政治家。右大臣となるが失脚、太宰府で没。書や漢詩文に優れた。学問の神としても知られる。

※ 傑出：すぐれてぬきんでていること。

※ ロマン主義：文芸上の思想運動の一つ。主観・個性・感情などの自由を重視した。

※ テキスト：原文・本文。テキスト。

※ 自己同一性：アイデンティティ。自分が自分であることの確信。真の自分、自己の存在証明などの意で用いる。

問一、二重傍線部イ～への漢字と読みとして正しいものを次から選びなさい。

(イ：解答番号1、ロ：解答番号2、ハ：解答番号3、ニ：解答番号4、ホ：解答番号5、ヘ：解答番号6)

- | | | | | | |
|-----|-------|------|------|-------|------|
| (イ) | ホッタン | 1、発端 | 2、掘端 | 3、発短 | 4、掘短 |
| (ロ) | セイジユク | 1、精熟 | 2、成熟 | 3、静熟 | 4、生熟 |
| (ハ) | ホウガ | 1、奉賀 | 2、奉加 | 3、萌芽 | 4、保賀 |
| (ニ) | 歪(み) | 1、ひが | 2、きわ | 3、たわ | 4、ゆが |
| (ホ) | カツコウ | 1、滑降 | 2、格好 | 3、渴仰 | 4、恰好 |
| (ヘ) | 懂(れ) | 1、こが | 2、ほま | 3、あこが | 4、はな |

問二、波線部Ⅰ～Ⅲの言葉の意味を、それぞれあとから選びなさい。(Ⅰ：解答番号7、Ⅱ：解答番号8、Ⅲ：解答番号9)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-------------|
| (Ⅰ) 恣意 | 1、一般的な考え | 2、自分勝手な考え | 3、独創的な考え |
| | 4、偏見に満ちた考え | 5、人まねの考え | |
| (Ⅱ) 陳腐 | 1、珍しいこと | 2、貴重なこと | 3、ありふれていること |
| | 4、独特なこと | 5、陳列してあること | |
| (Ⅲ) ふんだんに | 1、多く | 2、少なく | 3、惜しみなく |
| | 4、貴重に | 5、ほどほどに | |

問三、(A)～(D)に入る言葉として最も適当なものを、それぞれ次から選びなさい。

(A：解答番号10、B：解答番号11、C：解答番号12、D：解答番号13)

- 1、一方 2、そもそも 3、もし 4、つまり 5、たとえば

問四、傍線部①とあるが、「歌謡」の特徴として**不適当なもの**を次から一つ選びなさい。(解答番号14)

- 1、声に出してうたわれ、身振りや踊りを伴う。
- 2、仮名文字の多いスタイルが普通の形式となった。
- 3、規則を重んじる側面と規則を逸脱する側面があった。
- 4、各時代に傑出した個性を輩出した。
- 5、作者が誰かわからない作品ばかりである。

問五、傍線部②の内容として**不適当なもの**を次から一つ選びなさい。(解答番号15)

- 1、短期間に西洋の到達したものに追いつこうとしたために生じた。
- 2、歌謡の多様な豊饒さを十分に汲み取ることができなかった。
- 3、文学研究や文学史において歌謡の地位が低く見られてきた。
- 4、結果よりも意図の中に天才の独創性を見ようとした。
- 5、歌謡を真面目な学問的考察の対象にふさわしいと見なした。

問六、(a)～(c)には次のどの言葉が入るか、それぞれ一つ選びなさい。

(a：解答番号16、b：解答番号17、c：解答番号18)

- 1、独創性 2、無名性 3、個性 4、恣意性 5、可能性

問七、傍線部③について、筆者が再評価する必要があると述べている理由を、次から一つ選びなさい。(解答番号19)

- 1、歌謡が近代においてあまり重視されなかったため。
- 2、歌謡の構成員が階級的に最下層に属していたため。
- 3、日本の西洋化が短期間に西洋に追いつこうとしたため。
- 4、近代日本文化全体の達成したものを検討するため。

5、作者が誰であるかさえわからない作品ばかりなため。

問八、傍線部④とあるが、どのような「理由」があったのか。その内容として最も適当なものを次から一つ選びなさい。

(解答番号 20)

- 1、歌謡の作者の多くが、階級的に最下層に属する人々であったということ。
- 2、歌謡の作者の多くが、天皇を含む貴族階級や武士階級の人々であったということ。
- 3、歌謡の作者の多くが、階級的に中流に属する多種多様な芸人たちであったということ。
- 4、歌謡の作者の多くが、世俗を離れた僧侶や隠者などといった人々であったということ。
- 5、歌謡の作者の多くが、その階級にも属さず自由奔放に生活する人々であったということ。

問九、傍線部⑤の説明として最も適当なものを、次から一つ選びなさい。

(解答番号 21)

- 1、テキストの語句を厳密に守り、同一であることを賞讃する考え方。
- 2、テキストの作り変えを当然とする近代の考え方を嘲笑する考え方。
- 3、テキストの自己同一性や作者の著作権の保護を優先させる考え方。
- 4、テキストには常に従わず、独創的な詩句を用いようとする考え方。
- 5、テキストの作り変えも臨機応変に行えば良いという自由な考え方。

問十、本文の内容に合わないものを次から一つ選びなさい。

(解答番号 22)

- 1、歌謡は日本詩歌史の重要な一ジャンルであり、長い歴史を通じ豊かな変化をとげてきた。
- 2、歌謡は作者がわからないことが多かったため、近代文学研究の対象とはならなかった。
- 3、歌謡は近代社会の価値観を超越する、「超個人的」「階級縦断的」な側面をもっていた。
- 4、本質的に自由奔放な考え方を備えた歌謡は、近代詩歌においても一ジャンルを形成している。
- 5、歌謡の持つテキストや詩句に対する臨機応変さは、その輝かしい特徴であるとさえ言える。

二、23～26の傍線部と読みが同じものをそれぞれ選びなさい。

- | | | | | |
|-------|------|------|------|------|
| 23、字面 | 1、面長 | 2、面積 | 3、鼻面 | 4、細面 |
| 24、凝視 | 1、懐柔 | 2、曙光 | 3、欺瞞 | 4、概括 |
| 25、構図 | 1、絵図 | 2、壮図 | 3、企図 | 4、雄図 |
| 26、所望 | 1、本望 | 2、望見 | 3、展望 | 4、願望 |

三、27～32の傍線部と同じ漢字を用いるものをそれぞれ選びなさい。

- 27、蓄財や収集癖も、イゼンとして事物とのつながりを残している点で、…
 - 1、イリヨクを發揮する
 - 2、アンイな考え
 - 3、現状をイジする
 - 4、法律にイキヨする
 - 5、事のケイイを説明する
- 28、重力のはたらかない空間に自分の体を置いてみるというカクウの設定
 - 1、原料をカコウする
 - 2、負傷者をタンカにのせる
 - 3、外出をキョカする
 - 4、商品のカカクを調べる
 - 5、症状のケイカを見る
- 29、意識全体のカイソウのなかで科学がどのような位置にあるか
 - 1、事件にカイニユウする
 - 2、疑問がヒョウカイする
 - 3、ケイカイなフットワーク
 - 4、チョウカイ処分が下る
 - 5、らせん状のカイダン
- 30、収容所での生活のように外界とカクゼツされていると、
 - 1、優れたサイカクを發揮する
 - 2、カクチョウ高い文章を読む
 - 3、カンカクを置いて並べる
 - 4、舞台裏でカクサクする
 - 5、野鳥のホカクを禁止する
- 31、自我がカクサンする
 - 1、陰でカク策する
 - 2、運動場をカク張する
 - 3、味カクが発達している
 - 4、話がカク心に触れる
 - 5、彼には品カクがある
- 32、近代ヨーロッパのコンカンをなすともいうべき考え方
 - 1、箱根のセキを越える
 - 2、太いミキを切る
 - 3、キモに銘ずる
 - 4、入会をススメる
 - 5、水がクダを通る

四、33～36のそれぞれに答えなさい。

- 33、「侵略」の「略」と同じ意味で用いられているものを選びなさい。
1、略式 2、策略 3、略奪 4、省略 5、経略
- 34、「的中」の「中」と同じ意味で用いられているものを選びなさい。
1、中毒 2、中流 3、胸中 4、中立 5、連中
- 35、「独断」の「断」と同じ意味で用いられているものを選びなさい。
1、切断 2、判断 3、油断 4、断行 5、断絶
- 36、「負目」の「負」と同じ意味で用いられているものを選びなさい。
1、勝負 2、自負 3、負債 4、負数 5、抱負

五、37～42の空欄に入る適当な漢字を選び、答えなさい。

- 37、天（ ）孤独 1、上 2、涯 3、内 4、外
- 38、同床（ ）夢 1、異 2、為 3、井 4、衣
- 39、疑心暗（ ） 1、機 2、鬼 3、奇 4、危
- 40、一蓮（ ） 1、千金 2、同仁 3、託生 4、阿成
- 41、大言（ ） 1、飛語 2、造語 3、私語 4、壮語
- 42、順風（ ） 1、良好 2、日和 3、航路 4、満帆